



# 植物園

## シンポジウム

十一月十六日(日)、総合人間学部一号館二〇二講義室にて「京大植物園八十周年記念シンポジウム——温故知新——」が行われた。

はじめに、シンポジウムを主催した「京大植物園を考ふる会」の今村彰生氏(総合地球環境学研究所)により、「考ふる会」の趣旨説明と活動報告がなされた。京大植物園は理学部の付属施設として、研究の場や教育の場としてばかりでなく、憩いの場としても親しまれてきたが、二〇〇二年十一月に理学部により伐採が行われた。この伐採をきっかけとして、国立大学の法人化を前にして、研究利用者・

一般利用者・近隣住民などがそれぞれの立場を超えて、植物園の未来像を考ふるため「考ふる会」が設立され、観察会の実施や植物園運営に関する提言の提出などを行ってきたと説明した。

# 様々な立場からの提言

戦後の植物園と 戦後の深い村田源氏(元理学部植物学教室講師)が「京大植物園がたどってきた道」という題で講演。村田氏によると、理学部植物園は、設置当初から、大学のキャンパス内に自然林に近い林を作りたという構想の下で運営された。戦前と戦後しばらくは植物学教室

室により運営され、一九六四年に植物生態研究施設が設置され、植物学教室と共同運営がなされた。植物園は植物学教室の研究テーマの変化に伴い、栽培される植物から園の形態など運営方法も変化した。またある程度の管理は必要であり、必ずしも伐採しない方がいいわけではない。設置から

「雑草も大切な研究素材だ」という言葉は植物園の運営方針の脈流としてあるのではないかと述べた。次に、植物園利用者の立場からの報告がなされた。植物園にてカタハリウスグモというクモの観察・研究により博士号を取得した渡部健氏(元理学研究科・動物生態学専攻)が、本人の

また管理・運営側に期待することほ、あくまで自然モデル園として人為的に何かを足したり、引いたりすることはせず、安定した環境を維持することとした。とりわけ生態学の専門家の責任ある発言が必要ではないかと述べた。

また管理・運営側に期待することほ、あくまで自然モデル園として人為的に何かを足したり、引いたりすることはせず、安定した環境を維持することとした。とりわけ生態学の専門家の責任ある発言が必要ではないかと述べた。

他にも「植物園というよりも昆虫生態観察園と言った方がいいほど昆虫研究に使われている。また研究者としては、一般開放されるよりも自分達だけの秘密の花園の方がいい」(藤崎)、「京大の伝統であるフィールドワークは、フィールドが研究者を育て、研究者もフィールドを育てるものではなかったか、植物園にフィールドとしての付加価値を与えていく視点が園の運営から失われているように感じる」(湯本)などの意見が出た。会場から発言した理学部助教教授は「理学部内の議論とこの会の議論には、かなり隔たりがあるのを感じた。理学部としても理学関係者の利用が少なうことは認識している」と述べた。

終わりに、司会者の丑丸敦史氏(総合地球環境学研究所)は考ふる会としてこ

室により運営され、一九六四年に植物生態研究施設が設置され、植物学教室と共同運営がなされた。植物園は植物学教室の研究テーマの変化に伴い、栽培される植物から園の形態など運営方法も変化した。またある程度の管理は必要であり、必ずしも伐採しない方がいいわけではない。設置から

「雑草も大切な研究素材だ」という言葉は植物園の運営方針の脈流としてあるのではないかと述べた。次に、植物園利用者の立場からの報告がなされた。植物園にてカタハリウスグモというクモの観察・研究により博士号を取得した渡部健氏(元理学研究科・動物生態学専攻)が、本人の

また管理・運営側に期待することほ、あくまで自然モデル園として人為的に何かを足したり、引いたりすることはせず、安定した環境を維持することとした。とりわけ生態学の専門家の責任ある発言が必要ではないかと述べた。

また管理・運営側に期待することほ、あくまで自然モデル園として人為的に何かを足したり、引いたりすることはせず、安定した環境を維持することとした。とりわけ生態学の専門家の責任ある発言が必要ではないかと述べた。

他にも「植物園というよりも昆虫生態観察園と言った方がいいほど昆虫研究に使われている。また研究者としては、一般開放されるよりも自分達だけの秘密の花園の方がいい」(藤崎)、「京大の伝統であるフィールドワークは、フィールドが研究者を育て、研究者もフィールドを育てるものではなかったか、植物園に

の会で出された意見を植物園運営委員会に提出することを明らかにし「是非も含めて、自分たちが集約した意見を委員会にも聞いてほしい。植物園の運営に関して京大当局がどのように協議していくのか、この会の議論を反映させてくれることを願っている」と語った。

休養をほさみ、川那部浩